

# 競技注意事項

## 1. 競技規則について

本大会は、2022年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

## 2. 札幌市厚別公園陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 競技開始後はフィールド内での練習を禁止する。
- 3) 競技場を使用する練習は競技開始の15分前までとする。
- 4) 投擲種目の練習は係の指示に従うこと。また、芝に空いた穴は修復すること。
- 5) 本大会では補助競技場を使用することはできない。
- 6) 観戦禁止区域での場所取り、観戦、撮影等は行わないこと。

## 3. 感染症対策・入場制限について

- 1) 本大会では、ADカード・体調管理チェックフォームを用いて入場制限を行う。
- 2) 参加校には事前にADカードをデータとして配布する。A4カラー印刷で必要枚数を準備すること。
- 3) 観客として来場される方は、来場前に体調チェックフォームへの入力を行うこと。入力が確認され次第、受付にて「観客」のADカードを配布する。
- 4) ADカードケースは受付にて1人1枚配布する。ADカードはウォーミングアップ中や競技中を除き常に首から下げておき、入退場の際には係の者にADカードを提示すること。
- 5) ADカードケースは2日目の競技終了後に返却すること。

## 4. アスリートビブスについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ビブスを使用する。まだビブスを受け取っていない競技者は、受付まで団体ごとに取りに来ること。
- 2) 腰ナンバー標識は各個人が用意したものを使用する。個人トラック種目出場者については右側にのみつける。4×100mRについては4走者のみ右側につける。4×400mRについては2, 3走が両側に 4走が右側につける。
- 3) 3000m以上の競技に出場する競技者は、1次点呼の際に配布する各自のレーンナンバーがかかれたビブスを胸・背部につけること。ただし、女子10000m、10000mWに出場する競技者については、各自のレーンナンバーに10を足した数字を使用すること。

## 5. 点呼について

- 1) 競技者は競技日程に記載された時間までに1次点呼を行い、その後各競技開始場所に直接集合する。
- 2) 3000mSC、5000m、10000m、10000mWではシューズの厚さ検定とレーンナンバーの書かれたビブスの配布をもって1次点呼とする。なお、シューズ検定は時間がかかる場合があるため、早めに受けることを推奨する。その他の競技では、1次点呼場所に掲示されたスタートリストへの○付けをもって1次点呼とする。

3) 1次点呼終了時刻、及び現地集合時刻は以下の通りとする。

	1次点呼	現地集合時間
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技(棒高跳を除く)	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

4) 1次点呼を指定された時刻までに完了しなかった、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなされ当該競技種目に出場できない。

5) 代理人による招集最終確認は原則として認めないが、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。

6) 1次点呼場所は、競技場エントランスに設ける。

7) リレー種目は、オーダー用紙(本部受付に用意)に走順・ナンバー・名前を記入し、1次点呼(○付け)終了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。

8) 混成競技の招集は、その日の最初の種目のみ招集を行い、以後の招集は行わない。競技者は次の種目の実施場所に移動し、混成競技者係の指示を受ける。

## 6. シューズについて

1) 各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR5 に基づいたシューズを着用すること。

以下の表は日本陸上競技連盟陸上競技規則より抜粋した靴底の最大の厚さである。これ以上の厚さのシューズで出走することはできず、仮に基準より厚い靴で競技を行った場合は競技規則に基づいて失格となるので注意すること。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 (三段跳を除く)	20 mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、後ろの中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
ハードル種目を含む 800m 未満のトラック種目	20 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
障害物競争を含む 800m 以上のトラック種目	25 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。
競歩種目	40 mm	

- 2) 靴底の厚さ計測を行うため、3000m以上の種目に参加するものは1次点呼として全員必ずレースで使用するシューズを1次点呼場所に持参しシューズの厚さ検定を受けること。1次点呼を兼ねているため、検定を受けなかった場合は棄権として処理されるので注意すること。
- 3) やり投げにて旧規格のスパイク(つま先側がかかとよりも厚いもの)を使用する場合は1次点呼の際にチェック欄にチェックを入れること。旧規格のスパイクで競技を行っても公認となるが大会記録、学生記録等の認定はされない。ただし、1次点呼にて申告を行わずに競技を行った場合は失格となるので必ず申告をすること。

## 7. 棄権について

- 1) 事前に棄権することがわかっている場合は大会前日までに申し出ること。
- 2) 大会当日、やむなく棄権する場合は、棄権届け(2枚)に必要な事項を記入し、競技者係と本部へ提出すること。  
なお、棄権届は大会受付(メインスタンド下役員審判控室)にあるので、取りに来ること。

## 8. 競技の抽選・番組編成について

- 1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はアスリートランキング記載の順による。
- 2) 決勝の組み合わせ、およびレーン順は主催者が抽選する。
- 3) 事前棄権者が多数の場合、予選ラウンドが行われない競技については、選手の最高記録を考慮して決勝ラウンドの番組編成を行う。

## 9. 用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。ただし、投擲物は検査を受けて許可されたものを使用することができる(検査は、1次点呼(○付け)終了時刻1時間前までに用器具庫で行う)。この投擲物は、他の競技者も使用できる。(TR32)

## 10. 滑り止め(炭酸マグネシウム)について

主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

## 11. 助力について

競技者への助力については、TR6に則り規制される。これに抵触する場合は、審判長から注意・警告を行う。是正されない場合は、種目から除外される場合もある。

## 12. トラック競技について

- 1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し、復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。
- 2) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、以下の制限時間で打ち切ることがある。また、このタイムは変更の場合がある。

男子 5000m	20 分 00 秒	女子 5000m	25 分 00 秒
男子 10000m	40 分 00 秒	女子 10000m	45 分 00 秒
男子 10000mW	65 分 00 秒	女子 10000mW	70 分 00 秒
男子 3000mSC	15 分 00 秒	女子 3000mSC	18 分 00 秒

### 13. フィールド競技について

- 1) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- 2) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記の通りとするが、状況により変更することもあり得る。

男子 走高跳	練習 1m50	試技 1m60 より 5 cm	1m85 より 3 cm
女子 走高跳	練習 1m20	試技 1m30 より 5 cm	1m60 より 3 cm
男子 棒高跳	練習 2m90	試技 3m00 より 10 cm	
女子 棒高跳	練習 2m00	試技 2m10 より 10 cm	
男子 混成走高跳	練習 1m45	試技 1m50 より 5 cm	1m80 より 3 cm
男子 混成棒高跳	練習 2m70	試技 2m80 より 10 cm	
女子 混成走高跳	練習 1m20	試技 1m25 より 5 cm	1m45 より 3 cm

- 3) 男子三段跳の踏み切り板は、砂場から 11m と 13m の位置に設置する。
- 4) 円滑な競技進行のため、試技を行う際には制限時間を順守すること。
- 5) フィールド競技の競技場所に近接したスタンドにコーチングエリアを設ける。競技者とのコミュニケーションはコーチングエリアから行うこと。

### 14. 表彰について

各種目第 3 位までの入賞者を表彰する。該当者は競技終了後、アナウンスが掛かり次第、表彰席前に集合すること。

### 15. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表(アナウンス)されてから 30 分以内(同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内)に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

## 16. 撮影許可証について

- 1) スマートフォン・タブレット等の端末以外での撮影を希望する者は事前に撮影許可証申請書を記入し、受付に提出する。
- 2) 受付で配布するビブスを撮影許可証とし、ビブスを着用している者のみ撮影を許可する。
- 3) 使用したビブスは1日ごとに返却すること。

## 17. その他

- 1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。役員・補助員による運搬は行わない。
- 2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品等については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
- 3) 競技中の事故等による身体の故障の場合、応急処置を行うが、その後の治療等は本人負担とする(競技者保険の適用)。また、事故の結果について本連盟は一切責任を負わない。
- 4) 声を出して応援する際はマスクを着用すること。大声での声援は避けること。
- 5) 大会期間中に出たゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- 6) 不審者等を発見したら、大会本部まで連絡すること。
- 7) その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。